

魅力満載!! 三江線

江の川沿いの風情



《25》

昨年六月の三江線の全線復旧以降、沿線地域の地元では利用促進の取り組みが度々行われ、私も機会があることに参加した。旧瑞穂町の高原地区にはなじみの薄い三江線だが、多くの方が三江線の風景を撮影していた。そこからトラックで運ばれた自転車に乗って、粕淵までの約二十三キロをサイクリングする。お尻が痛くなったが、地元の小さな名所を再認識できた。日ごろの運動不足解消には最適の企画だった。六月中旬には、ツアー

昨年六月の三江線の全線復旧以降、沿線地域の地元では利用促進の取り組みが度々行われ、私も機会があることに参加した。旧瑞穂町の高原地区にはなじみの薄い三江線だが、多くの方が三江線の風景を撮影していた。そこからトラックで運ばれた自転車に乗って、粕淵までの約二十三キロをサイクリングする。お尻が痛くなったが、地元の小さな名所を再認識できた。日ごろの運動不足解消には最適の企画だった。六月中旬には、ツアー

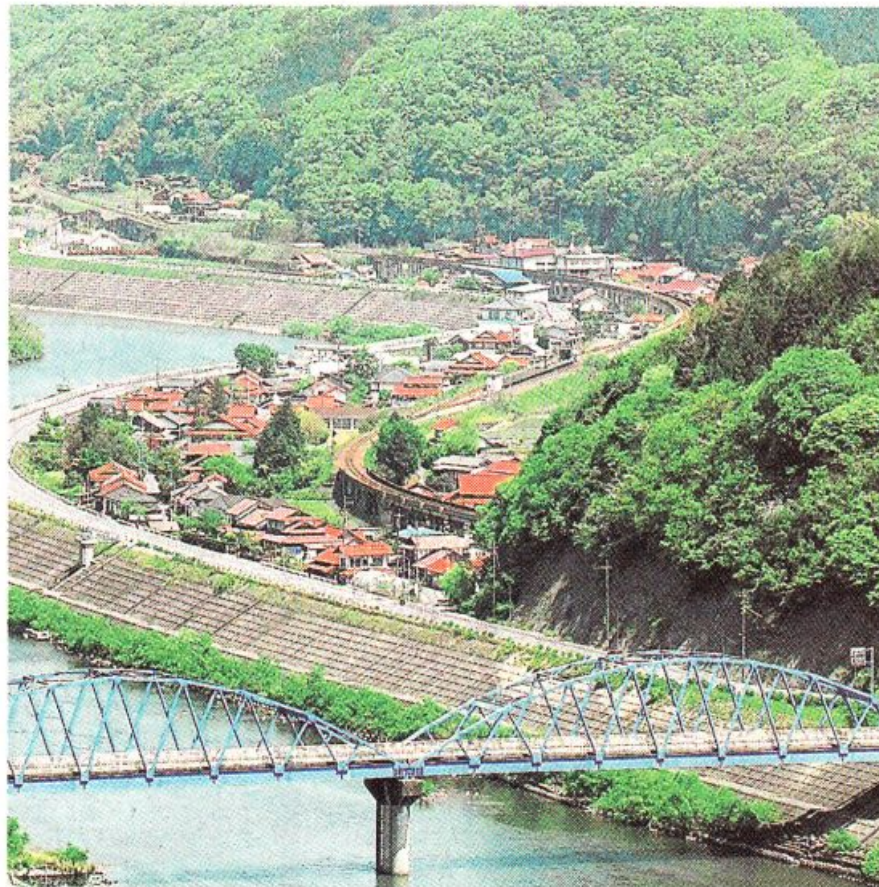
邑南町の高原公民館

り、実際に乗車して利用

た。六月中旬には、ツアー

沿線の取り組み

利用促進へ知恵絞り催し



都賀展望台から眺めた三江線。江の川に沿うように走る

ーとして企画され、参加線にかかわることができ、募集されるようだった。この一年、連載を通じ、さまざまな形で三江線への思いを共感で、さまざま形で三江線への思いを共感で、

走る三江線。四季折々の景色を車窓に映し、三次―江津間一〇八・一キロを走り抜く。

波きらめく夏の江の川、霧に包まれる秋の山々、車窓をしっかりと曇らせる冬の空気。

そして、新緑が深緑となるこの季節、三江線は緑のトンネルを延々と進む。都賀展望台から眺めると、周辺の山々とともに、江の川に沿って蛇行する三江線が確認できる。どの景色を切り取っても、心が洗われるようすがすがしさを。

私は、この美しい風景をいつまでも、車窓から、また沿線から、見ていたいと思う。

(邑智郡広域振興財団・高橋由美、美郷町都賀本郷在住)

隔週土曜日掲載